

会員数(58・3現在)

逗子地区 144名

葉山地区 293名

大船地区 63名

合計 500名

碩心会月報

日本詩吟学院 岳風会
神奈川 碩心会

認可
発行

58・3月
第128号

発行 者
根 岸 岳 萃
編 者 村 集 愛 岳
中 岩 崎 恵 岳

私と詩吟

長柄支部

笠

原

珠

風

私の生家は農商兼業であって

その頃母屋の前に物置がありま
た。その物置の半分、十二畳位が
堅の板張で男の子等専用の部屋と
されていました。私がまだ小学校
に入っていた頃のことだと思
います。その板の間で長兄がど
で習ってきたのか、川中島の剣舞
を一生懸命次兄達に特訓してお
りました。お糸リでも買ったもの
か黒鞘の刀を腰に、頭に鉢巻の兄
達の姿が私の目にはとても凛々
く見えまじった。あぶないのど隅
この方ではじっと見ていた私は、
この間はかべせしやいしやく、
と詩と舞を覚えてしまったわけ
すが、何の意味も分らず初めて詩

吟と出会ったのでした。

結婚して家事と家業に追まくら
れながらもうやく三人の子供を言
てあげ、ほっとひと息ついた時、誰
もきつと同じだと思えますが、何か
趣味の時間を持ちたいなと思いまし
た。私は店をやっているし、目が悪
いので細かい事は駄目だし、途中で
挫折したのでは子供等の教育上よろ
しからずと色々考えた末、婦人会の
踊の部と碩心会詩吟教室に入会させ
ていただくことになりました。
夜とはいうものの、週二回主婦が
出かけるのは大変努力のいること
でしたが、いつのまにか十三、四年の
星宿が過ぎました。数々の詩に接す
る時、昔の人の心の豊かさ、偉大さ

に心打たれ、大自然の恵みとか、人の人たる道のモラルとか、今更ながら学びとる事ばかりです。不上達ながらも人前で吟ずる時は作者の詩の心をなるべく解りやすく説明してから吟ずるよう心掛けております。聞かっている人に詩の心を少しでも理解してもらいたいからです。

碩心会も会員相互の信頼のもと、五百名の大台にのりましたが、今後は一人でも多く、特に若い世代の入会を望みたいと思ひます。そして故人の残された有名な詩の数々を子供に、孫に継承して不滅のものにしたのからです。そんな気持ちで長男に託し彼も入会しました。仕事の都合で練習は急げがちですが、そのうち時間と心のゆとりも出来てくることを期待してゐます。

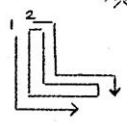
ついこの間ようやく八段の審査を終えましたが、年功序列のみ古く赤願の至りです。しかし自分なりにがんばっていきなれと思つております。

「書きとり」

高段者審査たけなわの二月の指導者講習会の折、たまたま話題が「書きとり」の事になり、松井先生、根岸先生から色々有意義な説明がありました。皆さんも新教本をひらいてみては……。

(節の区切り)

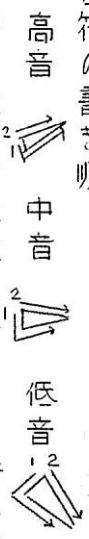
◇ 間合印の書き順



(音位)

◇ 高、中、低音の符号を正確に。

◇ 音符の書き順



◇ 音符の表し方に大・小あり(特に音声をはる所は音符を大きく書く)

(余韻)

◇ 一の余韻のみき方の違いについて、

(その他)

◇ 書きとりの練習も常日頃からやっておいた方がよい。

「詩情」

高段者審査を終つての講評の中で、詩文や節調にこだわりすぎて詩情が乏しい……との評がありましたが、これが大変難しい事であり又大切な事だと思ひます。私も審査のお手伝ひをさせていたゞきなから感じた事は皆さんが精いっぱいやられてゐるのだが、詩文、節調の事で頭がはっぴはいられて、情感までもうふと息の感でも打込む姿に感動しました。常盤先生の、審査の点数は何を基準につけるかの話の中に、一詩情、二発音、三発声、四吟法、五音位、六態度とありました。その詩情が出せたら占めたもの、それが難しい。私は日頃から吟じこむといふ言葉をよく使ひます。人生の年輪と同じく数を重ねると何かそこに味わひが出てくると思つのです。この際今まで勉強してきた課題吟を更に吟じこんでみては……。ハツの日にか詩心にとけこんで情感もおのずとわくのではないてしょうか。

審査をばればなれ……

審査を終えて々々々れといふことでハツばい々って帰ろう々と仲間三人、立寄った店でのみ交がらもやっはり審査の話が尾をひきやおら話は入歯のこゝになつてきて、そのうち三人が三人共、入歯をはずして見せあつて調子はどうの、いくらかかったの、どうやら老人の門をくぐりはじめた三人のようです。

晩酌を終えてハツの気持ちで詩吟をうなつてゐるおじいちゃん、傍らで、小さな孫ちゃんもハツの間に覚えてくちざさんでゐる。あれあれ、おじいちゃんの方が文句が違つていふ……とはおばあちゃん審査員の評……

炬燵の上でおじいちゃんとおばあちゃんが仲よくヨイ・ドンノと書きとりのけいこを始めたから、そばで小ちゃん、孫ちゃんが、マケルナイ、イチヤ、ニコムニアリーです……

印刷様式の変更に伴い

◎原稿募集のおねがい

四月号より、今迄の謄写印刷がタイプ印刷
に変わることになりました。そうなりますと、
同じ四頁でも字数が大巾に増え、その字数を
埋めることが思われられます。毎月の事とな
ると何とも頭の痛む思いです。

そこでこの際皆様にもぜひ協力していただき、
き、たくさんの方の寄稿をお願いいたします。
次のような内容のもの、其の他何なりとお寄
せいただきたいと思ひます。

◇私と詩吟、私の好きな詩等（今までオ
ー頁に掲載してゐるもので毎月必ず一
人掲載を目標にしています）

◇教場だより（教場の歴史、近況、練習風

景、行事等）

◇詩と結びつく史蹟の紹介、歴史物語り等

◇短歌・俳句・随筆等

◇其の他

梅と桜の前線

都心の梅は今が満開、一月下旬

鹿児島で咲き始める梅は百日余りでゆっく

北上する、一方桜前線は三月下旬に上陸後、

約四十日で北海道に達する。梅の開花から、

桜まで、宮崎では六月十二日も間があるが、

東京は五十六日、新潟二十一日、秋田七日と間

隔がつまり、札幌では五月上旬に梅と桜が同

時に咲く。（朝日新聞より）

（人）

560 齊藤和子（堀内F） 葉山町一色一三六七―七

561 村田昌子（二色B） 横須賀市秋谷 六五一

562 西田 稔（横警） 〇四六八一五六一八四三〇

佐野町五―二八

466 橋本定雄（横警）

（退）

〇四六八一五三一七六七八